

高齢者移動支援モデル事業について

報告 6-1

対象地区での事前アンケート調査の結果

(1～6 ページ)

報告 6-2

実証実施の結果

(7～8 ページ)

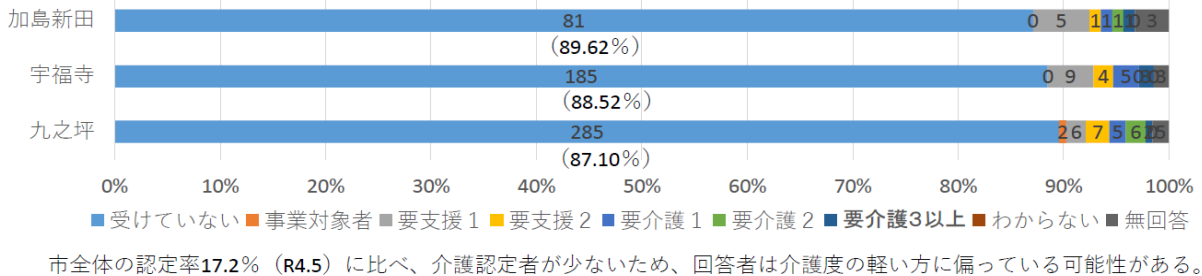
対象地区での事前アンケート調査の結果

- 1 目的 対象地区に住む高齢者の買い物における移動ニーズを把握する。
- 2 地区 九之坪地区の一部(両ヶ前、石ノ戸、菰口、梅田、天神、神明、東ノ川)、
加島新田地区、宇福寺地区
- 3 対象者 対象地区に居住する65歳以上の高齢者 963人
- 4 期間 令和4年2月15日～3月10日
- 5 方法 郵送による自記式アンケート調査。
- 6 周知 自治会・民生委員への説明、自治会回覧
- 7 回収率

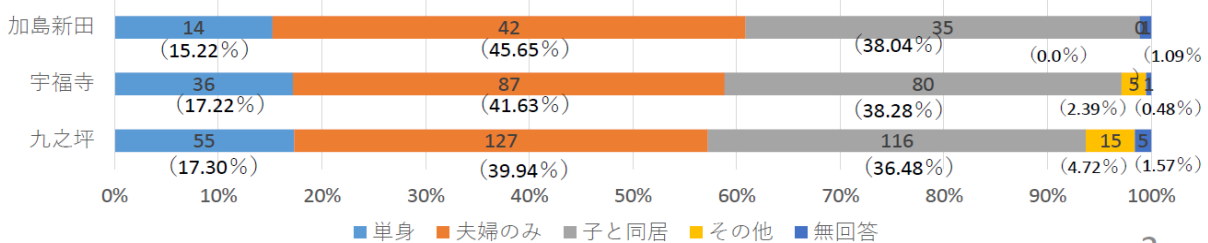
地区	回答者/対象者	回収率
九之坪一部地区	333人/485人	68.6%
加島新田地区	94人/153人	61.4%
宇福寺地区	213人/325人	65.5%
対象地区全体	640人/963人	66.4%

1

介護度

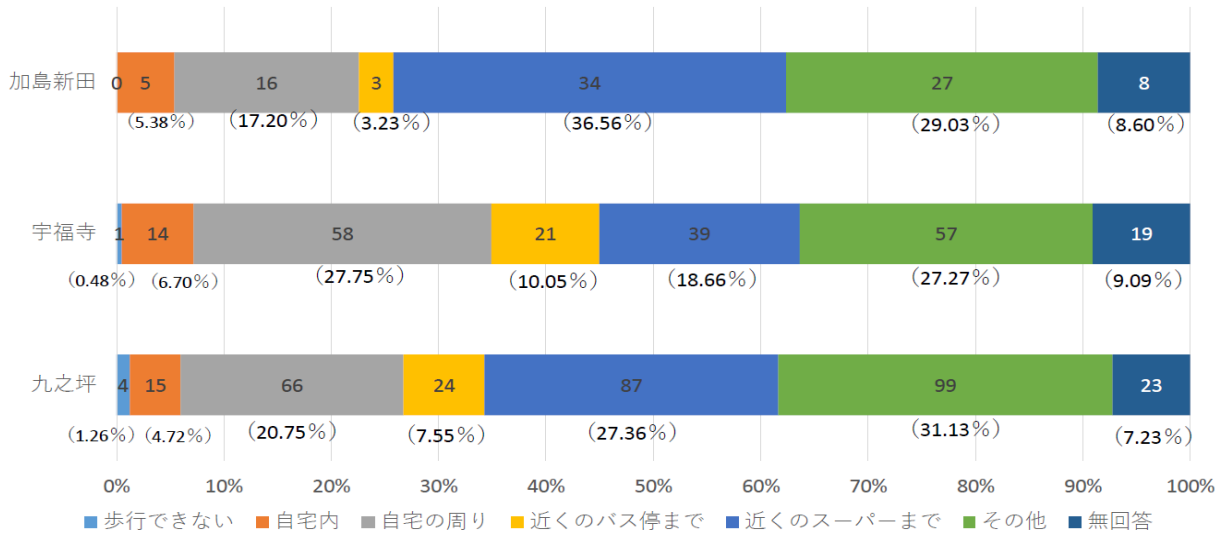


同居家族構成



2

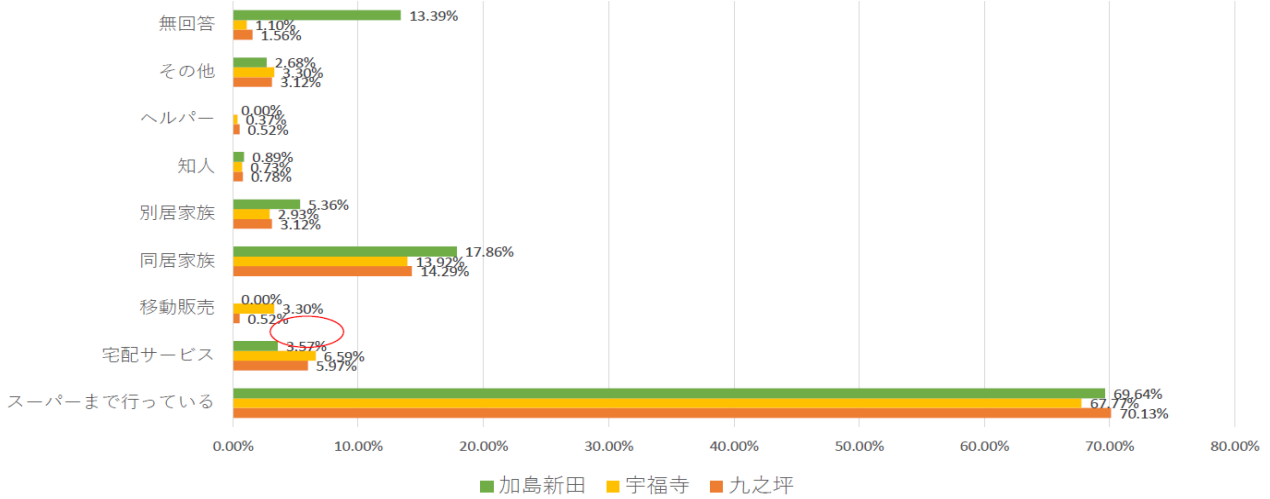
歩行できる範囲



宇福寺地区はスーパーまでの距離が遠いため、スーパーまで歩行できる人が少ない。

3

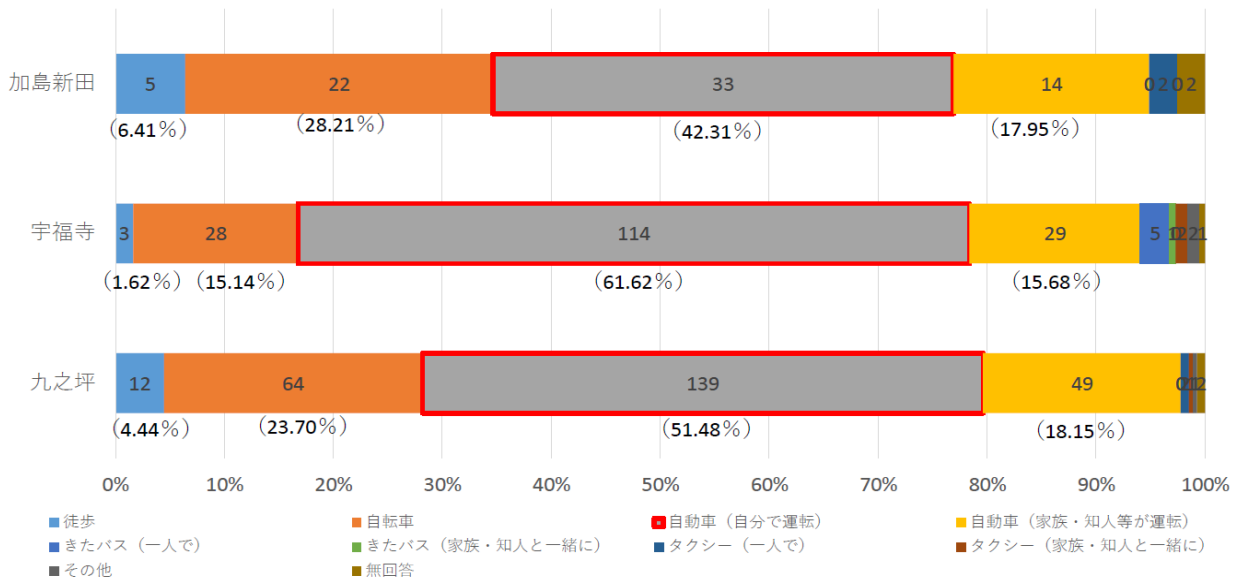
買い物の手段(複数回答)



宇福寺地区は移動販売（とくし丸）を利用している。
加島新田地区は家族の支援が他の地区より多い。

4

スーパーまでの交通手段



宇福寺地区はスーパーまでの距離があるためか、自動車を自分で運転している人が多い。

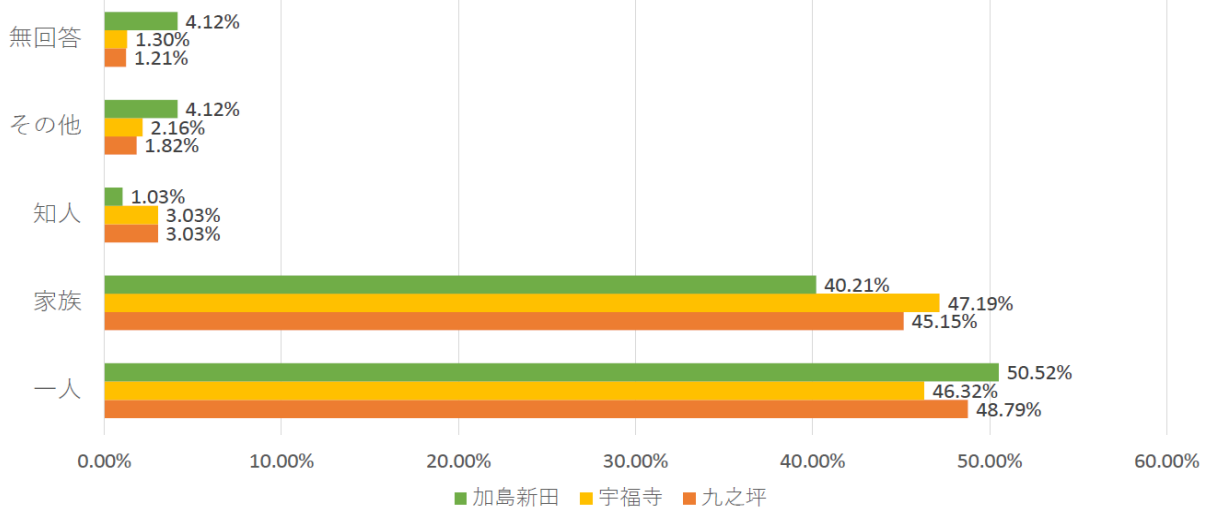
5

スーパーまでの交通手段 (きたバス・タクシー利用率)

	九之坪		宇福寺		加島新田	
	人数	利用率	人数	利用率	人数	利用率
きたバス(一人で)	0	0.00%	5	2.72%	0	0.00%
きたバス(家族・知人と一緒に)	0	0.00%	1	0.54%	0	0.00%
タクシー(一人で)	2	0.74%	0	0.00%	2	2.63%
タクシー(家族・知人と一緒に)	1	0.37%	2	1.09%	0	0.00%

6

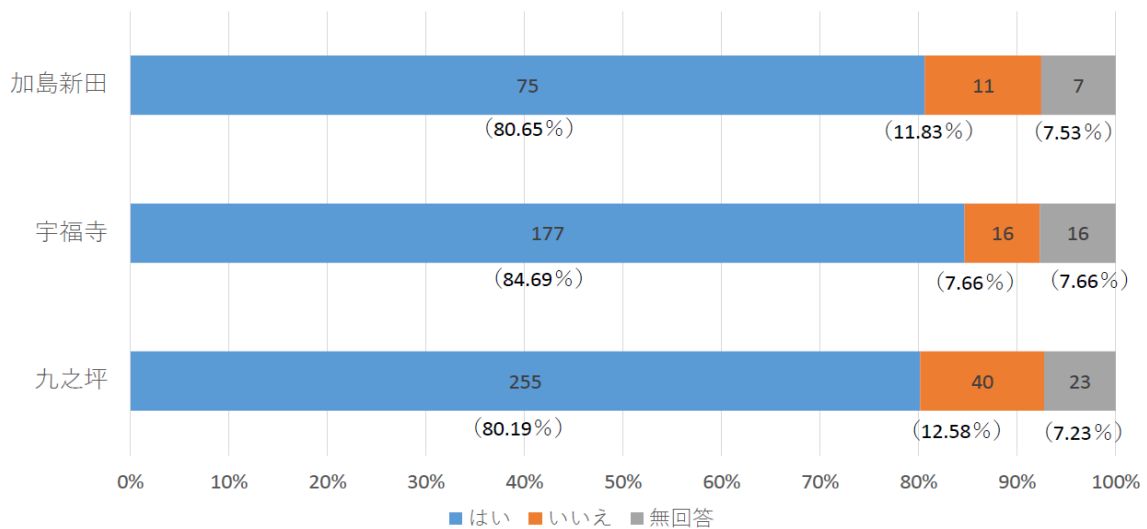
スーパーまで誰と行きますか（複数回答）



一人、または家族と行く人が多い。

7

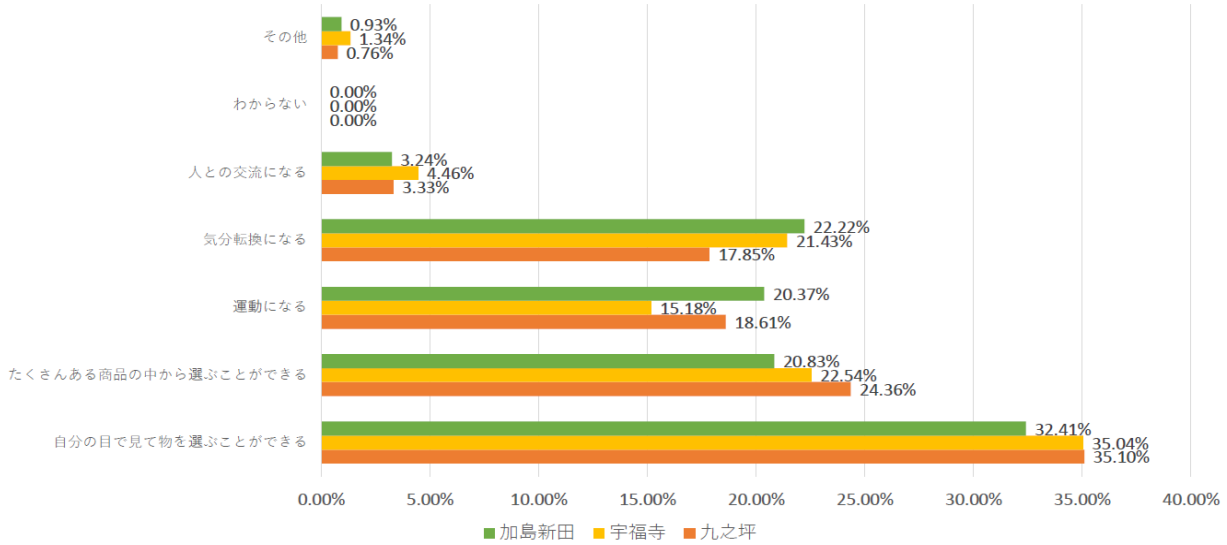
自分で買い物したいと思うか



80%以上の方が自分で買い物をしたいと回答した。

8

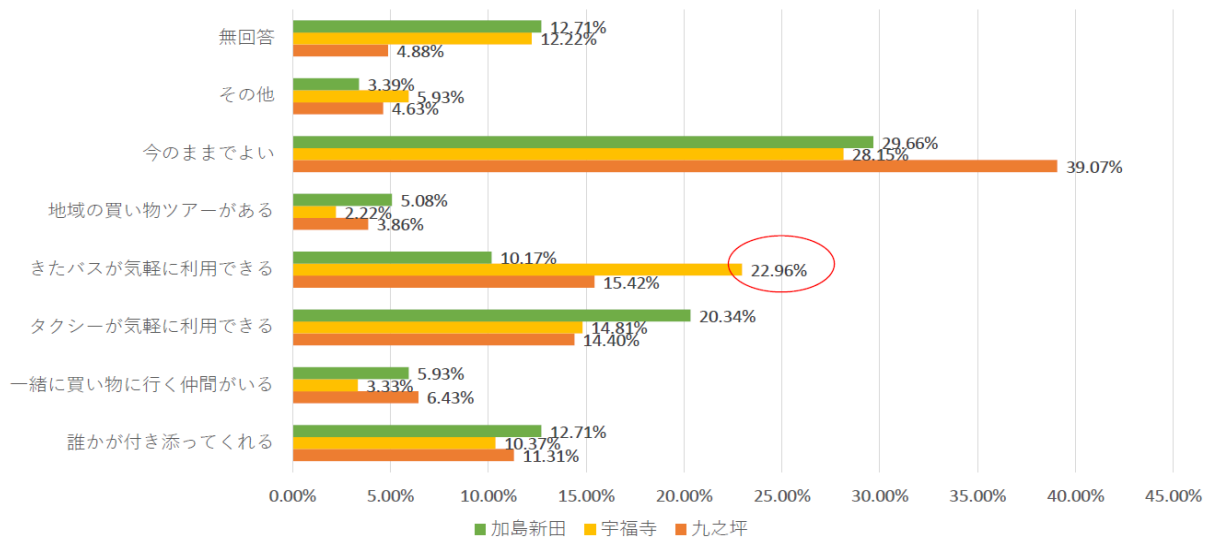
自分で買い物をしたいと思う理由



自分の目で見て物を選ぶことができるが1番多かった。次いで、たくさんある商品の中から選ぶことができる、または気分転換になる、が多かった。

9

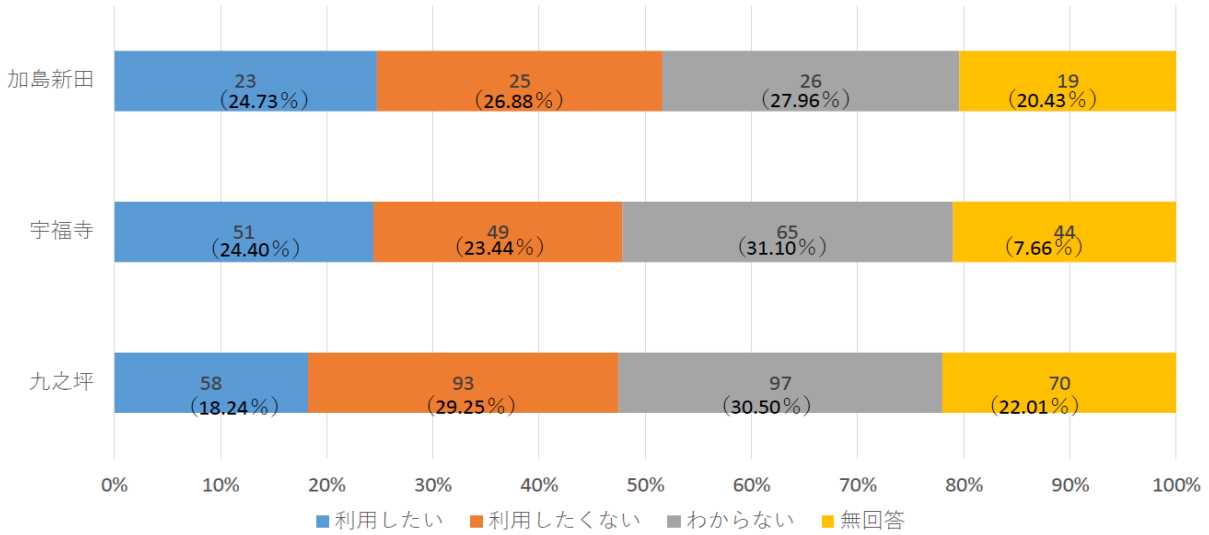
どんな支援があれば買い物に行きやすくなると思うか(複数回答)



今のままでよいが一番多かった。
宇福寺地区はきたバスが気軽に利用できるが他の地区と比べて多い。

10

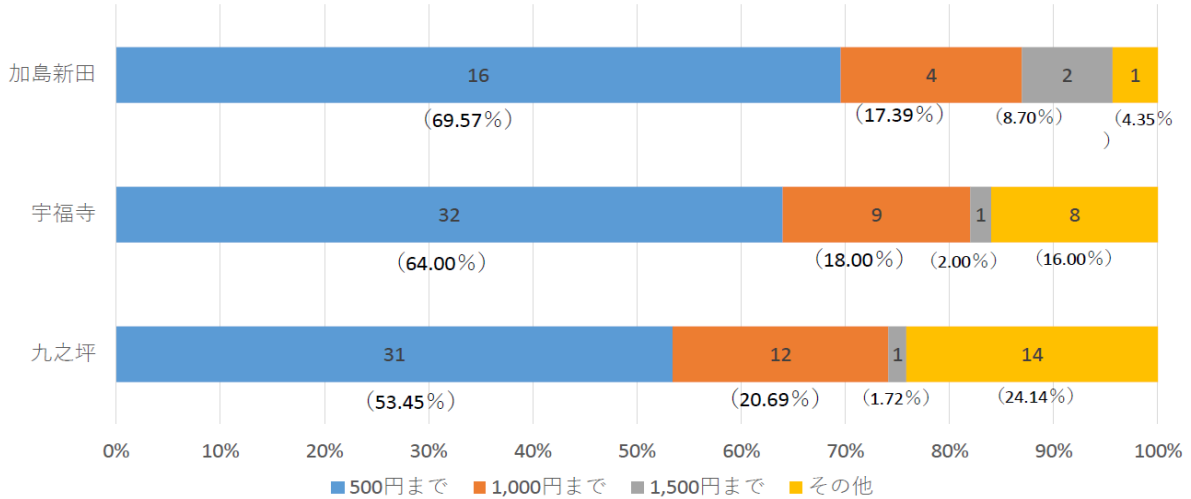
移動支援モデル事業を利用したいと思うか



わからないが一番多かった。
宇福寺地区では利用したいが利用したくないを上回っていた。

11

利用料はいくらまでなら利用したいと思うか



500円までが一番多かった。
その他では、無料がいいという意見や、タクシーであれば2,000円、重い物なら3,000円くらいという意見があった。

12

実証実施の結果

1 目的

「虚弱な高齢者が自ら買い物をするための移動手段」として自宅から市内の指定スーパーまでの限定ルートに往復のタクシー利用を支援することにより、高齢者の自立と介護予防を目的とする。

2 準備

(1) 対象地区

最寄りのバス停までの距離が 100 メートル以上で、市内スーパーからも 500 メートル圏外の地域を目安に選定した。加島新田地区、宇福寺地区、九之坪地区の一部(両ヶ前・石ノ戸、菰口、梅田、天神、神明、東ノ川)、

(2) 目的地スーパーの選定

事前アンケートの結果より、利用の多かった市内スーパー 3 か所

(3) 利用要件の決定

利用料1回(片道)300 円、利用者はタクシー会社に直接支払う

利用時間午後 1 時～3 時 30 分(予約:往路午後 1～2 時、復路午後 2～3 時)

利用人数 タクシー1 台につき 1～4 人まで利用可能

利用回数 週 1 回火曜日又は木曜日、事前予約制

(4) 周知方法

(ア) 自治会・民生委員への説明

(イ) 自治会回覧

(ウ) 高齢者サロン等への PR

(エ) 地域包括支援センター経由での PR

(オ) 事前アンケートに参加希望があった人に勧奨

(5) 対象者の選定と利用登録

要介護認定で要支援 1、2 もしくは厚生労働省の生活機能評価基本チェックリストで事業対象者相当と判定された方。いずれも職員の訪問調査を実施し、申請をいただき利用登録をする。(利用登録証と利用確認券を発行)

(6) 事業者の選定及び契約

タクシー協会経由で事業の内容に関心をいただいた事業者に、個々に委託内容を説明し、参加意向があった事業者 8 社と契約をした。

3 実証実施

(1) 期間 令和4年5月17日(火)～7月28日(木)

(2) 利用登録者 9人

すべてのタクシー事業者に、登録者を割付

	1往復	2往復	6往復	7往復	計
利用人数	4人	1人	1人	1人	7人
乗車回数	8回	4回	12回	14回	38回

(3) 契約事業者数

8事業者のうち稼働実績 6事業者

(4) 実施後の意見

(ア) 利用者(7人)

回覧を見て自ら利用したのは2人のみ、その他は包括等に声をかけられ利用した。運行時間帯、曜日は6人が良いとした。予約方法は良くなかったが3人、待ち合わせはうまくいったと全員が答えた。乗り合わせしたのは4人で友人や別居の家族であった。4人が利用料が高いと答えた。

(イ) 自治会及び民生委員

思ったより利用者が少なかったのは、独居高齢者でも家族が助けている場合も多いと思われる。買い物タクシーのようなものがあると嬉しい。交通と福祉がタッグを組んで考えてほしい。今は何とかなっている、将来は不安である。

(ウ) タクシー事業者

今回はスムーズに運行できたが、時間貸しでなく、距離制の場合同じサービスの提供は難しい。「事前登録制」だったので、配車が円滑だったという意見が多かった。

(エ) 地域包括支援センター

対象者探しに苦労した。予約に支援がいる場合もあった。日頃からタクシーを利用する人には有効であった。300円が高いという人もいて、価値観のずれを感じた。高齢者だけでなく、他の世代も必要とする人がいる。

4 結果から得た知見

- (1) 移動支援の必要性の高い対象者にサービスを提供しようとするほど詳細なアセスメント指標が必要になり職員等の負担が増すため、事務量の積算が重要な要素となる。
- (2) アンケートで利用希望と答えても実際に利用した人はほとんどいなかったことから、移動ニーズを把握するときは、困り具合のレベルを十分に把握してマッチングすることが必要である。
- (3) 虚弱高齢者の半数はタクシーの予約方法など利用に対してサポートが必要である。
- (4) 時間貸し契約は、タクシー事業者にとっては、事務が簡便で効率的であるが、支払い側にとっては費用負担は大きい。距離制だと内容によっては事業者の協力が難しい場合がある。
- (5) 今回の事業は、日頃から買い物にタクシーを利用している人にとって経済的メリットを感じる事業となったが、公費負担の在り方として検討が必要である。
- (6) 通院のタクシーは良くても、買い物のために一人の負担費用が片道300円は高いと半数の高齢者は感じる。地域的にも買い物は別の方法で満たされている。
- (7) 複数人での利用は、買い物をきっかけに人とのつながりができたり、外出の機会を増やし介護予防にもつながることから、メリットがある。
- (8) 小さな市の中で買い物に限ってみても、地区によって状況が異なることから、移動の特徴やニーズを捉えるときも地区特性を考慮して支援することが必要である。